

日本人学生と留学生双方の学びと地域観光開発に資する取り組み (地域課題解決奨励金事業報告)

Observations on the Learning of Japanese Students and Oversea students about Regional Culture and History through Some Attempts to Make a Contribution to Developing Regional Sightseeing

麻生 迪子・矢羽野 隆男・奥羽 充規

要旨

令和元年度四天王寺大学地域課題解決奨励金事業の助成を受け、地域の観光活性化と本学の日本人学生と留学生の学びに資する目的で、観光振興・地域活性化団体(まなリンク協議会)と協力し、古墳めぐり及び藤井寺観光ツアーを執り行った。本報告書はその結果を報告するものである。本取り組みは、本学留学生及び日本人学生を地域観光ツアーのモニターとし、彼らを対象に計4回の地域観光ツアーを行った。これらの地域観光ツアーにおける日本人学生留学生の参加人数は、延べ73名であった。実施にあたり、日本人学生・留学生の双方から、「地域の歴史や文化を知った」「日本と中国の文化比較」などの「学び」の感想が複数寄せられた。加えて、留学生からは、外国人観光客誘致にあたりアピールすべき点として「ガイドの質の高さ」「古代料理を作ることの楽しさ」などの感想が寄せられた。それと同時に、「kohun」という単語が英語として浸透していない「ゆるキャラはアメリカ人に対するPRとしてはあまり効果がないのでは」など外国人観光客誘致にあたり検討すべき点が指摘された。

キーワード：藤井寺 地域観光ツアー開発 観光ツアーモニター 日本人学生 留学生

1. はじめに

2003年に観光立国宣言が出されてから2008年に観光庁が設立されるなど、観光活性化に向けて様々な政策がとられている。翻って、大学の役割を着目すると、大学には「地域貢献」が教育・研究に加えて「第三の役割」として課せられている(長田, 2015)。長田(2015)は、文科省が発表する資料や地域経済の観点から考察し、地域が抱える問題に対して大学で培われた知見を活用することが社会的に求められているとまとめている。実のところ、大学と地域の連携の事例は、「特集全国大学の地域貢献度調査総合ランキング」で示されるように枚挙に暇がない。もともと、大学と地域が連携することは、地域のみにもメリットがあるわけではない。地域との連携は学生の学びに十分に資する。とりわけ、近年、アクティブラーニングの一種として注目

されているサービラーニング¹の実施にあたり、地域を学生の学びの場として設定することの有効性が報告されている（板橋他,2020）。

このような背景を本学にあてはめると、本学が位置する藤井寺市・羽曳野市には、世界遺産に認定された百舌鳥・古市古墳群といった観光資源があることから、この観光資源の開発及び活性化に今後本学の知見が求められていくことになろう。なお、このような活動は、学生教育と地域貢献にあたり有益であることは言を俟たない。

そこで、報告者達は、地域の観光活性化と本学の日本人学生及び留学生の学びに資する目的で、観光振興・地域活性化団体と協力し、古墳めぐり及び藤井寺観光ツアーを執り行った。

本報告書では、観光事業に対して本学留学生と日本人学生がどのように参加したのか、また、どのような学びがあったのかを報告する。そして、留学生と日本人学生が地域観光事業に参加することが地域観光事業活性化にどのように資したのか検討したい。

2. 実践背景：藤井寺市における観光と本学における留学生受け入れ状況

「藤井寺市観光振興に向けた課題分析」²では、藤井寺市観光事業の強みとして、「まちの活性化に向け、新たなつながりを形成する動きがある」という点が報告されている。例として挙げるならば、「まなリンク協議会」といった地域活性化団体の活発な活動であろう。「まなリンク協議会」とは、藤井寺市公認の地域活性化団体で、藤井寺市の活性化を目的とし、藤井寺市民や人や藤井寺市を訪れる観光客に藤井寺市の魅力を伝えている団体である。ホームページによる広報や「手ぬぐい」の作成、歴史文化と手作りワークショップ「宮小屋」開催など活発に活動している。このような強みに対して、観光振興に向けての課題として、①「豊富な地域資源が顕在化されておらず、観光化された地域資源についても、楽しみ方を増やす取組が少ない」、②「藤井寺市のもつ地域の魅力の露出が少なく、地域イメージが弱い」、③「民間のメディア等、多様な媒体での的確な発信が必要」、④「豊富な地域資源の魅力を伝える人材や体制が必要」、という3点が述べられている。すなわち、藤井寺市の観光振興のためには、観光ツアーの開発、観光資源のアピール機会の増加、観光ガイドの育成が求められていると言える。

一方で、本学の留学生受け入れについて述べると、本学で学ぶ留学生は大きく2つに分けられる。一つは、ユタ大学から本学に留学する短期留学生である。彼らは短期留学生であるので、6月一杯滞在し、本学で主として日本語を学ぶ。今一つは、本学の提携校である浙江工商大学東方言語文化院から留学する中国人学生である。彼らは9月に来日し、2月末まで滞在する。在

¹ 文部科学省の用語集によると、サービラーニングとは、「教育活動の一環として、一定の期間、地域のニーズ等を踏まえた社会奉仕活動を体験することによって、それまで知識として学んできたことを実際のサービス体験に活かし、また実際のサービス体験から自分の学問的取組や進路について新たな視野を得る教育プログラム」と説明している。

² 藤井寺市では、観光の現状を分析することにより、今後の観光振興に係る方針を示し、同時に体系的に各取組を展開する「藤井寺市まちなか観光創造プラン」（期間は平成26年度から令和6年度まで）を作成している。「藤井寺市観光振興に向けた課題分析」は、「藤井寺市まちなか観光創造プラン」の第4章に該当する。

学中、日本語の授業だけではなく、観光や日本文化に関する授業を学ぶ。両者ともに本学の近くの寮に居住し、大学と寮が生活の中心となる。他地域の報告事例であるが、留学生であっても地域社会に対して関心が高い（松永・麻生,2013）ことを鑑みると、地域社会と留学生を結び付けるきっかけを提示することは彼らの日本留学経験の満足度を高めることができると考えられる。

以上の藤井寺市の抱える観光の強みと振興課題、そして、留学生の潜在的なニーズを踏まえ、報告者（矢羽野）とまなリンク協議会が協議を行い、本事業の活動を設定した。本事業が行う活動は、留学生・日本人学生が観光ツアーにモニターとして参加し、その意見を観光ツアー開発に生かす、という活動である。まなリンク協議会が主催する地域観光事業に留学生・日本人学生がモニターとして参加することは、生の声を観光振興・地域活性化団体に伝える機会となり、地域観光事業開発に有益であると考えられる。そして、地域観光事業に参加することは、留学生にとっては地域住民とのふれあいや地域の文化や歴史を学ぶ機会となり、同時に生の日本語を学ぶ機会となる。日本人学生から見ても、地域観光事業に参加することは地域文化や歴史を学ぶ機会であるだけでなく、留学生の持つ文化や言語を学ぶ機会となりうる。

3. まなリンク協議会との取り組み

まなリンク協議会が藤井寺市観光ボランティアの会と連携し、ユタ大学からの短期留学生を対象にした観光ツアーと浙江工商大学からの交換留学生を対象にした観光ツアーを実施計画した。なお、これらのツアーには日本人学生の参加者も募集した。報告者（奥羽・矢羽野）が実施にあたり、学生参加等のコーディネートを行った。

3. 1 ユタ大学からの留学生を対象とした取り組み³

ユタ大学からの短期留学生と日本人学生を対象に、古墳巡りと藤井寺散策ツアーを実施した。この取り組みは、①留学生に古墳の状況や大学の地元である藤井寺を知ってもらうこと ②多数の訪日外国人誘致のために古墳だけではなく藤井寺市の街の魅力発信や国際的な視点を知ること、③英語で古墳や地域を案内、紹介していくことができる日本人学生の育成、という3つの目的をもって行われたものである。実施者は、前述したまなリンク協議会であるが、藤井寺市観光ボランティアの会の方々の協力も得ている。

次に、参加者について述べると、参加者は日本人学生留学生合わせて23名とその他教職員5名、計28名であった。藤井寺市観光ボランティアガイドの会から9名の観光ボランティアがガイドを行った。観光ボランティアガイドの会のガイドの方々は英語が堪能な元教員や海外駐在経験者などで、英語を交えてガイドが行われた。前半は、古墳巡りを行い、後半は藤井寺市の歴史

³ 3.1節は、四天王寺大学ホームページ「記事」「International Walk in 藤井寺！ユタ大学留学生と世界遺産の古墳めぐり！」をもとにし、加筆修正を行ったものである。なお、まなリンク協議会と本学との他の取り組みについては、天野一・川本藍(2020)「まちづくり・インターネット広報を通じた地域連携実践と学生の学び—2019年度地域課題解決奨励金事業・地域連携活動費事業 報告—」(『教育実践論集』第9号所収) 参照。

名所をめぐった。前半の古墳巡りでは、土師ノ里～鍋塚～仲津姫陵～古室山古墳～赤面山古墳～大鳥塚古墳～応神天皇陵というルートで巡った。写真1、写真2、写真3、写真4にその様子を示す。



写真1



写真2



写真3



写真4

後半の藤井寺市の歴史名所めぐりでは、道明寺および道明寺天満宮に参拝し、菅原道真公の話や梅、撫で牛の話、参拝の作法を学び、古墳を造営するために使われた「⁴修羅」なども見学した。見学の様子を写真5、写真6、写真7、写真8に示す。

⁴ 「修羅」とは、1978年(昭和53年(1978)、大阪府教育委員会の発掘調査によって、藤井寺市の三ツ塚古墳から発掘された古代の巨石運搬用の木ぞりで、大型・小型の二種が発掘された。全国的なニュースとなり、4月15日の現地説明会では、1万2千人もの見学者が訪れた。実物は特殊樹脂による保存処理が行われ、大型は近つ飛鳥博物館(太子町)に、小型は藤井寺図書館に展示され、また道明寺天満宮には巨木を用いた実物大のレプリカが展示されている。なお、藤井寺市の生涯学習センター(愛称「アイセルシュラホール」)は船型埴輪と修羅とをモチーフとした特徴ある外観をもつ。



写真5



写真6



写真7



写真8

参加した日本人学生・留学生の感想を述べる。紙幅の都合で一部をあげるが、日本人学生からは「まず 初めに観光協会の方が英語で話された時、その話し方は堅くなく すらすらと分かりやすく話されていたので 見ていてすごく勉強になりました。古墳の説明の時も 難しい言葉が沢山ある中で紙をあまり見ず話されていたのですごいなと思いました。前方後円墳は学校で習ったのですが、説明を聞き全然知らなかったことが多かったのですが 勉強になり知識が増えました。」といった、観光ボランティアガイドの会の方々の英語力や地域の歴史に対する学びが生じたという意見や「土師ノ里駅を降りてすぐに古墳があるのには驚きました。観光ボランティアガイドの方が日本語と英語を駆使して説明している姿を見て私もこんな風にガイドできたらいいなと思いました。」というような英語力の目標を示す記述や「ユタ大学の学生とあまりコミュニケーションをとれなかったのが残念でした。ただ、まったく知らなかった古墳について知ることができたのはよかったです。」というように本ツアーを自己の英語力を試す場として利用したことが窺える記述もあった。さらに、写真5や写真8で分かるように、お寺の手水所の作法や神社本殿での2礼2拍手1礼といったお参りの作法に関する英語の解説を留学生とともに聞くことで、これまで学生たちの知らなかった宗教儀礼を実践しながら学ぶことができたことと喜ぶ学生もいたようである。

一方で、留学生からは地域観光ツアーのモニターとしての様々な意見が寄せられた。「SNSに藤井寺市観光名所をあげてはどうか」「ツアーを充実させたほうがいい」「ガイドはとてもよかった。歴史的背景に触れないと楽しめない場所。」「ガイドで「kofun」という日本語発音を習っ

たのはとても嬉しかったが、まだ来ていない人への検索ワードにはならないだろう。浸透すればいいが、sumo や sushi のように認知されるのには時間がかかる。「アメリカ人にゆるキャラはあまり効果的ではないと思う」といった、観光ボランティアガイドの会の方々の説明やツアー内容のすばらしさを述べるコメントとともに、外国人観光客としての立場から観光客誘致に支障があると感じられた点が述べられた。

3. 2 浙江工商大学からの交換留学生を対象とした取り組み⁵

ユタ大学留学生を対象にした古墳巡りの知見を踏まえ、浙江工商大学の交換留学生と日本人学生を対象に藤井寺インターナショナルウォーキングが10月から2月にかけて実施された。実施にあたり、ユタ大学留学生を対象に行った古墳巡りツアー同様、藤井寺市観光ボランティアの会の協力を得た。表1に実施概要をあげる。

表1 藤井寺インターナショナルウォーキング実施概要

日時	活動	目的
10月20日（日）	第1回 藤井寺歴史遺産巡り	古市古墳群及び藤井寺駅界限と道明寺駅界限を歩く。
12月8日（日）	第2回 古代料理を作って古墳の中で食べる会	古代料理をつくる料理教室の後、作った料理をお弁当にして城山古墳公園の中で食べる。
2月8日（日）	第3回 星まつり燈火会（辛國神社）と藤井寺駅前散策	藤井寺市内の寺社仏閣巡り。

第1回藤井寺歴史遺産巡りは、古市古墳及び藤井寺駅界限について参加者に知ってもらうことを目的として行われた。参加人数は、日本人学生3名、留学生14名であった。

第1回藤井寺歴史遺産巡りの実施前に、留学生に対しては語彙や古墳についての時代背景や地理関係について整理する目的で報告者（麻生）が担当している「日本語IV」の授業で「古墳」をテーマにした読解活動を行った。なお、「日本語IV」には、参加留学生が全員参加している。読解活動により、古墳に対する様々な関心が寄せられた。ここでは、一例を示す。「古墳の中に葬られた人のまだ生きている時の話が知りたい」「古墳の形となかの葬られた人の関係はなんですか」「埴輪も文化の代表である。中国の兵馬俑ににている」「多分中国の礼法制度と関係があると思います、人葬や地位を示す副葬品などか」「古墳はただ古墳だけではない、たくさんのメッセージを持っています。これは古代の歴史を理解するに役に立っています」などである。留学生は地域文化である古墳について興味関心を持っていることが窺えた。このような背景知識をもとに第1回藤井寺歴史遺産巡りに参加した。

藤井寺歴史遺産巡りの当日、藤井寺市にあるアイセルシュラホールで「いのまなり」⁶や藤井

⁵ 3.2節は、四天王寺大学ホームページ記事「日本学科の地域貢献活動 [前編]」「日本学科の地域貢献活動 [後編]」という2つの記事をもとに加筆修正を行った。

⁶ 「いのまなり」とは、第9次遣唐使の一員として阿倍仲麻呂や吉備真備とともに唐へ渡った留学生のことである。平成16年（2004）西安郊外の工事現場で「姓は井、字は真成、国号は日本」などと記された墓誌が

寺市の古墳に関するレクチャーを受け、昼食をとった。その後、古市古墳群の見学と共に道明寺駅界隈の神社などを見学し、日本の歴史や文化に関する説明を受けた。観光ボランティアガイドの会の方々の説明を聞きながら、仲哀天皇陵や仲津姫陵、鍋塚、古室山古墳、応神天皇陵などを見学した。見学にあたり、グループに分かれて回ったが、各グループには日本人学生が配置されており、留学生日本人双方で交流をしながら楽しく散策を行う姿が見られた。写真9、写真10、写真11、写真12にその様子を示す。参加した留学生からは、「ガイドの方たちの説明力がすごく面白かった。」「ガイドさんの解説は親切で詳しく、色々なクイズを聞いて、天皇陵のことがよくわかりました。」といった声が寄せられ、協力を得た観光ボランティアガイドの会のガイドの方々に対しては、日本人学生から「とても分かりやすい工夫をされていた」と「伝える力」に対しての「気づき」が見られた。



写真9



写真10



写真11



写真12

発見され、それまで存在さえ知られていなかった「井真成（せいしんせい）」（一般には「いのまなり」と呼ばれるようになる）という留学生の人生が1300年の時を経て世の人々の知る所となった。井真成の姓「井」は現在の藤井寺市を根拠とした渡来系氏族「葛井」氏を指すとされ、現在「井真成」は藤井寺市公式キャラクター「まなりくん」として市民に親しまれている。

第2回古代料理を作って古墳の中で食べる会は、古市古墳群の魅力を参加者に体験してもらう目的で行われた。参加者は、日本人学生8名、留学生14名であった。当日は藤井寺のパープルホールの調理室にて、料理研究家の足立敦子氏が開発した古代料理をつくった。足立氏が開発した古代料理は、猪肉や鹿肉、古代米などを使用したもので、足立氏の指導と観光ボランティアガイドの会の森康員氏の解説に従い、日本人学生と留学生からなる6つのグループに分かれて、それぞれ古代料理を作った。料理が完成すると、お弁当の容器に入れ、徒歩で遊べる古墳「史跡公園 津堂城山古墳」に行き、参加者全員でシートの上で食事を取り交流を行った。活動の様子を写真13、写真14、写真15、写真16に示す。

百舌鳥にはない古市古墳群の特徴は、このように「入れる古墳」「登れる古墳」があることであり、実際に古墳に登り、古代料理を食すという活動は、この地域ならではの魅力を伝える活動であったと言える。これらの活動に対し、留学生からは「自分で一から作れて楽しかったです。」「みんなと一緒にするのはめっちゃ楽しかった。」「皆と一緒に料理をつくるのが初めてですから、この体験は本当に楽しかったです。」といった料理作りに対する好意的な感想や「古墳の風景はきれいで、天気もいいし、まるでピクニックみたいです。みんなで一緒に食べて楽しい。」といった地域の魅力を十分に味わったコメントが述べられた。



写真13



写真14



写真15



写真16

第3回星まつり燈火会（辛國神社）と藤井寺駅前散策は藤井寺街歩きの魅力を経験してもらう目的で行われた。参加者は、日本人学生3名、留学生9名であった。留学生の参加者が前回に比べて、減少しているのは実施時期が2月という大学の冬学期終了後であったためである。例年、この時期は大学で授業がないため、帰国を予定する留学生は少なくない。当日は、道明寺天満宮、道明寺、葛井寺を巡り、その後辛國神社の星まつりで幻想的な時間を過ごした。この活動においても観光ボランティアガイドの会のガイドの方々から協力を得た。観光ボランティアガイドの会の方々から神社や寺社の建物の歴史や由来について説明を受けた。見学の様子を写真17、写真18に示す。第1回第2回の取り組み同様、グループに分かれて散策を行ったが、日本人学生を各グループに配置し、文化交流の促進を目指した。見学においては、日本の神社仏閣の参拝の仕方や星まつりについて写真を撮る留学生の姿が見られた。参加した留学生からは「神社とお寺はどう違うのですか。」「神社では拍手するのに、なぜお寺ではしないのですか。」「神社で参拝する時に鈴を鳴らすのはなぜですか。」といった質問があがり、日中の文化比較が留学生の間で行われたことが窺えた。



写真17



写真18

4. 考察：日本人学生・留学生の学びと地域観光開発

上記の取り組みでは、いずれの活動においても日本人学生留学生の間に深い学びが見られたことが窺えた。例えば、ユタ大学からの短期留学生とともに古墳巡りを行った日本人学生の感想からは、「地域の歴史」を改めて学んだことや英語学習の目標や自己の英語力を知る機会になったことが窺えた。また、藤井寺インターナショナルウォーキングに参加した日本人学生のうち一人は、これを機に中国に対する関心が深まり、交換留学に関心を持ったものもいる。また、留学生から寄せられる日本文化に対する疑問を答えるうちに、自らの日本文化の知識が限定的であることに気が付き、日本語や日本文化についての学修を深めようという姿勢が生まれた日本人学生もいた。異文化と接することによって、自文化の客体化がもたらされたと言えよう。以上のような日本人学生の学びは、ただ知識を得るだけではなく、自分自身を分析するとともに態度や価値観の探求につながっている。「英語力」という観点から自分自身を分析した学生にとっては、「英語でガイドができる」という理想とする自己像の構築が行われたり、現在の

自己の英語力と自己が求める英語力が「不一致」であることを感じたりしたのであろう。これらは、英語学習において強い動機づけとなり得る⁷。「文化」という側面から自己を分析したものは、今回の試みは、自文化や異文化に対する探求心を涵養する場となったと言える。

留学生については、前節で述べたように各活動から「学び」を得ていた。各活動で述べられた感想を見ると、地域文化を味わい、自国と日本の文化比較を行っている姿が窺えた。中でも古墳という地域文化については、留学生の興味関心、知的好奇心を刺激していた。そして、藤井寺の歴史文化の味わい方は、ステレオタイプではない日本のイメージの構築に役立ったことも示唆された。前述した「日本語IV」の授業において、留学生生活を振り返る「留学のしおり」を作成するという課題を課したところ、次のような「しおり」が作成された。資料1、資料2は留学生が作成した「しおり」の一部である。「しおり」には、留学生が地域文化に親しみ、地域をどのように味わっていたか示されている。「しおり」を作成した学生は、本学のある羽曳野市、藤井寺市を「のんびり」「観光客が少ない」「静かな」街ととらえているが、このような特徴を積極的に味わっているようである。当該学生にとって「静かさ」や「のんびり」を味わえる街が羽曳野市や藤井寺市なのであろう。本学が位置する大阪は、観光ガイドブック等では大都会として紹介されているが、地域の歴史文化に親しむことにより、固定観念に縛られた日本ではなく多面的な日本を体感することができたのではないだろうか。

参加した留学生と日本人学生の様子から、留学生にとっては、まなリンク協議会の取り組みは地域住民とのふれあいや地域の文化や歴史を学ぶ機会となり、日本人学生にとっても、自文化や歴史に気付く機会であり、留学生の持つ文化や言語を学ぶ機会となったと言えそうである。

⁷ Dörnyei (2009)は、このような「理想像」や「自己像」「英語を使う経験」等からなる語学学習動機づけモデルを提示している。

資料1 留学生が日本語IVにて作成した「しおり」の一部

IBUキャンパス

春の時、桜がいっぱい咲いている。花見の名所と
思われている。桜の時期にキャンパスの通りで写
真を撮ったら、楽しみがわくと思える。

住所 大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1

TEL 072-956-3181 (代表)

ウェブサイト <http://www.shitennoji.ac.jp/ib>

入場無料

トイレ

売店

食事



野中寺

毎月18日に国宝の仏像が見える歴史的なお寺で
ある。静かで野良猫がいて、のんびりした観光ス
ポットと思える。

住所 大阪府羽曳野市野々上5丁目9-24

TEL 072-953-2248

入場無料

トイレ



イオンの屋上

藤井寺市の全体が眺められる場所である。子供の
遊び場も設置されているので、子供を連れて楽し
めるところである。

住所 大阪府藤井寺市岡2丁目10-11

TEL 072-939-5151

ウェブサイト <https://fujjidera-sc.com/>

入場無料

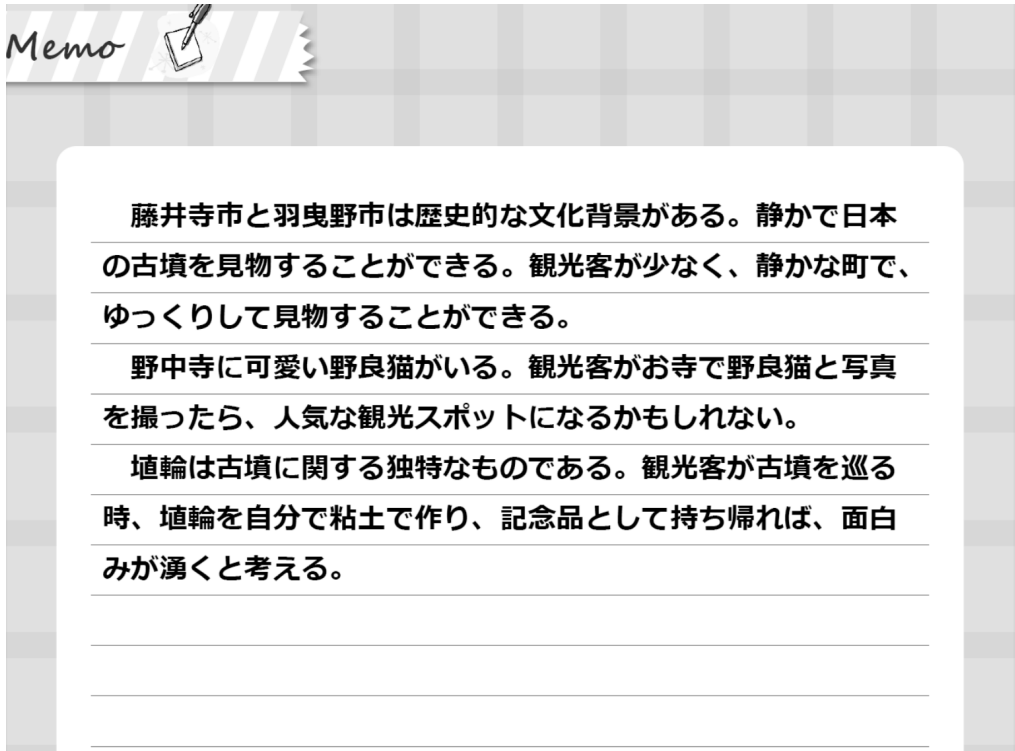
トイレ

売店

食事



資料2 留学生在が日本語IVにて作成した「しおり」の1部



さらに、地域観光活性化への貢献という面から、本取り組みを検討したい。観光ツアーにおいて留学生在が持った感想は、観光ツアーの開発や観光資源のアピール機会の増加にむけて示唆を与えるものであると考えられる。例えば、ユタ大学を対象に行った古墳巡りでは、アメリカ人から見ると「ゆるキャラ」といったものがあまりPRに効果的ではない可能性があることが指摘されている。また、「kohun」という言葉が英語に浸透していない点も指摘されている。これらの指摘は、現在の藤井寺市観光開発における問題点を浮き彫りにしていると言え、藤井寺市の観光資源のアピール戦略を検討する上で重要な意味を持つと考える。他方、「古代料理を作って古墳の中で食べる会」は、中国人留学生には概ね好評であったことや前掲した資料2の学生のコメントから埴輪作成が興味関心を引くものであることを踏まえると、古墳や古代の雰囲気を活かした体験型ツアーの開発が望まれるだろう。こういった留学生在を観光ツアーのモニターとした意見は、報告者（矢羽野）とまなリンク協議会の間で共有されており、外国人観光客誘致につながる観光ツアー開発に資するものであると考えられる。また、日本語IVで作成された資料1、資料2といった藤井寺・羽曳野地区における留学生生活を振り返る「しおり」は、藤井寺市観光情報発信を目的に、当事業関係者と共有を試みる。このような情報は、外国人観光客が当該地区にて何にひかれたのかを示すものである。いわば外国人観光客向けにガイドブック等を作成するにあたっての基礎データとなるであろう。観光ツアーに対する外国人視点を得ることができたということが、本実践の貢献であろう。

5. 残された課題

以上のように、本取り組みが日本人学生と留学生にどのような学びをもたらしたのか、そして、地域観光開発にどのような知見をもたらしたのかを記述した。両者を統合すると、本取り組みは、日本人学生と留学生の学び及び地域観光開発に一定の貢献があったと言える。しかし、課題も多く残っている。第一に、観光ツアーにおいては留学生の参加が主で、日本人学生の参加者が少なかった点である。とりわけ、浙江工商大学の留学生を対象とした藤井寺インターナショナルツアーの参加日本人学生は、延べ14名と少ない。参加した留学生が延べ37名であったことと比べると、その数は非常に少ない。日本人観光客にも魅力的なツアー開発を目指すのであれば、日本人学生の多数の参加が望ましいだろう。また、地域観光事業に参加することで日本人学生に深い学びをもたらすことを考えると、積極的に日本人学生の参加を促す必要があった。第二に、学習効果の測定である。本報告書は活動に対する感想や当日の様子から日本人学生と留学生の学びを分析したが、その分析は学習理論を踏まえていないため表面的なものにとどまっている。より精度の高い分析を行い、学習活動としての有効性を述べる必要があるだろう。さらには、観光開発にどのような影響をもたらしたのかを深く分析する必要があるだろう。以上の課題に留意しつつ、地域観光開発と学生教育の融合に取り組みたい。

謝辞：

本取り組みの実施に当たり、まなリンク協議会および藤井寺市観光協会ボランティアの会の方々には多大なるご支援を賜った。ここに感謝の意を表する。

付記：

本論文に記載している写真および資料については、掲載の許諾を得たものである。

参考文献

- 板橋民子・桐澤絵里奈・高田亮・渡辺若菜(2020)「地域に飛び込んで行う言語プログラムの可能性 —サービスマネジメントの観点からの学びの検証—」『APU 言語研究論叢』5, 56-71, 立命館アジア太平洋研究センター
- 長田進(2015)「地域貢献について大学が果たす役割についての一考察」『慶應義塾大学日吉紀要 社会科学』26, 17-28, 慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
- 坂本利子(2013)「異文化交流授業から国内学生は何を学んでいるか —多文化共生力育成をめざして—」『立命館言語文化研究』24(3), 143-158, 立命館大学国際言語文化研究所
- 坂田保治(2019)「特集全国大学の地域貢献度調査総合ランキング」『日経グローバル』374 6-23, 日経産業消費研究所
- 松永典子・麻生迪子(2013)「多文化理解教育促進のための留学生・留学生の家族の生活行動調査:一地域社会、滞在期間との関わりを中心に—」『日本語教育方法研究会誌』20(1), 50-51, 日本語教育方法研究会
- Dörnyei, Z. (2009). The L2 motivational self system. In Z. Dörnyei & E. Ushioda (Eds.), *Motivation, Language Identity and the L2 self* (pp. 9-42). Multilingual Matters.

参考サイト

四天王寺大学 経営学部 経営学科ブログ「International Walk in 藤井寺！ユタ大学留学生と世界遺産の古墳めぐり！」

<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/department/news/keiei/guide-29754.html> (2020年5月7日閲覧)

四天王寺大学 人文社会学部 日本学科 学科ブログ「日本学科の地域貢献活動 [前編]」

<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/department/news/nihon/guide-33934.html> (2020年5月7日閲覧)

四天王寺大学 人文社会学部 日本学科 学科ブログ「日本学科の地域貢献活動 [後編]」

<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/department/news/nihon/guide-33935.html> (2020年5月7日閲覧)

藤井寺市 市民生活部 観光課「藤井寺市まちなか観光創造プラン」

<https://www.city.fujiidera.lg.jp/rekishikanko/kankoannai/1402363647134.html> (2020年6月28日閲覧)

藤井寺市 市民生活部 観光課「藤井寺市観光振興に向けた課題分析」

<https://www.city.fujiidera.lg.jp/material/files/group/26/4shou.pdf> (2020年5月7日閲覧)

文部科学省「用語集」

(https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf) (2020年8月7日閲覧)

まなりんく協議会事務局「まなリンク協議会」<https://manalink.red/> (2020年5月7日閲覧)

(主たる執筆担当)

(麻生迪子：全体執筆，矢羽野隆男：本事業全体コーディネイト及び第3節草案執筆，奥羽充規：本事業全体コーディネイト及び2章一部加筆)